

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2771000862
法人名	医療法人 松仁会
事業所名	グループホーム 雅の家
訪問調査日	平成 20 年 6 月 27 日
評価確定日	平成 20 年 7 月 30 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 6月30日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2771000862
法人名	医療法人 松仁会
事業所名	グループホーム 雅の家
所在地	大阪市西淀川区大和田5丁目4番14号 (電話) 06-6477-2407

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年6月27日	評価確定日	平成20年7月30日

## 【情報提供票より】(2008年6月16日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 10 人, 非常勤 9 人, 常勤換算	14.4

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り		
	3 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	77,000円	その他の経費(月額)	27,000円	
敷 金	有( ) 円 ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(380,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	150 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円 月額 円			

### (4) 利用者の概要(6月16日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	6 名	要介護4	9 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.4 歳	最低	65 歳		95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	(医)春秋会 西大阪病院	すぎ歯科医院
---------	--------------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開所から3年が経過し、利用者の重度化が進む中で、一人ひとりへの目配り・気配り・思いやりからの、「個々人のあたりまえ」に視点をいたケアの実践に取り組んでいる。職員の離職を契機に、利用者の心身の病的変化や加齢による日常的な変化に迅速に対応する必要性から、ユニット固定勤務体制から現行の勤務体制に移行した。そのなかで、居室担当職員を決めて個々の見守りを受けながら、2ユニット全体をゆるやかな大きな家族とした日常を送るようになった。ショートステイ算定の申請を行い、地域の要望に応えられる体制作りを目指している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>①地域との関係強化を図る独自の理念作り、②理念の内容を全職員が共有できる教育・研修の実施、③事業所の多機能性を活かした利用者や地域への支援づくりを課題とされていた。①②については、日常の諸事を当たり前として地域でくらすを理念とし、業務引継ぎ時や定例会議で職員への徹底を図っている。③については、法人内診療所の協力での訪問診療や、地域家族からの入所・その他相談等への丁寧な対応などが行われている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>居室担当職員が利用者と共につくる、何がしたい、何ができるなどの目標設定と実践記録や種々の報告記録を基に、管理者と計画作成担当者が評価項目に沿って確認を行っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>管理者が近隣に在住しているため地元自治会との連携は比較的うまく行われている。運営推進会議構成員の地元代表の他に民生委員一人では、地域との繋がりが希薄ではないだろうか。他に地区福祉委員・ボランティア団体員の参加や、時機を選んでの消防署・警察署関係の参加を要請するなど、広範囲な地域との繋がりに向けた努力を期待する。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>独居及び市外からの入居者の他は、家族の面会がある。その機会を活かして個々の要望・意見を聞き取り、是々非々の丁寧な説明を行いながらの対応をしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会会館を利用しての誕生会や、近くのお好み焼き屋が協力してくれるおやつタイムの実施など、可能性を探りながら地域との連携を図る努力をしている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	日々の暮らしのあたりまえを見逃すことなく、ともに地域で暮らすことへの理解を深めた理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者一人ひとりの個性を理解し、共有しながら、その人らしく地域で生活することを支援するとして実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣に在住する管理者の自治会内での交流による、自治会長からの諸情報を活用し、町内行事などには、利用者の状態に合わせてできるだけ参加を心掛けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	居室担当者各人の文章化された“気づき”の集積と、外部評価結果を総合しての改善課題の検証と、その改善に向けて地道に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の催行での各種報告は丁寧に行われているが、利用者の家族代表の参加が定着しにくい点と、同じく地元代表が2人という偏りに、運営推進会議が活かされているとは言い難いところがある。	○	運営推進会議の構成員に地元福祉委員・ボランティア団体員などの参加や、時期を見て消防署や警察関係者の出席を要請することも必要と考える。また、町内広報にて一般参加を募るなどを試みるなど、雅の家の存在について広く地域の理解を得られるよう努力されることを望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	福祉の関係で年に数回、市担当者の来所の機会はある。その他、法令等に関する相談、情報交換での交流がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	必要に応じ、定期的にまた随時に適切な報告がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に職員が居室を訪ね、要望・意見を聞くよう努めている。要望などについては、利用者の状態に応じた是々非々の丁寧な説明の下にその対応を進めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員数人の急な離職をきっかけに、なじみの、且つ、即時の対応に迫られ、2ユニット全体に亘る勤務シフトを試行した。結果として、全職員が利用者個々を知る機会と新たな気づきからのケアを考え、実践する機会を得た。以上の経験を踏まえての、1・2階夫々のユニットへ固定した人員配置を考慮中である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内はもとより、外部研修は機会を選んで積極的に参加を支援している。資料・研修報告書は掲示と閲覧により共有を図り、申し送り時や定例会議での課題として取り組むなど、ケアの質向上に役立てている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協議会・大阪市グループホーム協議会へ参加での交流がある。他に市社協主宰の施設交換研修会への参加など、サービスの質向上に向けての取り組みがある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の前段階に、見学を含めた本人・家族との面談を繰り返し、お互いの納得を深めることに重きを置いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームを共に生活する場所とし、利用者の個性を尊重しながら利用者相互の存在を認め合う関係作りに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当の職員が利用者とともに考えた目標や、何がしたいか、何ができるかを把握しながら支援とケアにあたっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	十分なアセスメントによる介護計画を担当者会議で検討し、咀嚼して具体的なケアに結び付けている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは行われている。日常にみる状態や病的变化を見逃すことなく、適切な介護計画の見直しに繋いでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の重度化進行に対応して、同法人診療所の医師の定期診療による指導と家族の同意を得て、内科・リハ・皮膚科・歯科の訪問診療を実施している。耳鼻科についても準備中である。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望(同意書あり)により、訪問診療を実施し、医師との密な情報交換による適切な医療処置を受けられる体制がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	前年度に、家族・医者・管理者・計画作成者・介護リーダーによる十分な話し合いを行いながら、延命治療をすることなく家族の13日間の付き添いで、ホームでの看取りを経験した。この貴重な経験から、重度化・終末ケア・看取りに対する職員の意識統一とスキルアップが図られた。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の人生の足跡を知るなどから、その人のこだわりや人格を尊重した対応に努めている。個人情報の管理も適切である。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の日々諸事の変化をあたりまえとして、大事にする支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理する時の音や匂いを楽しみながら出来上がりを待っている。人数は限られているが、その日の気分・体調に合わせて食事の準備やあと片付けを一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週に3回は入るようにしている。利用者にあわせて調整し習慣化した時間帯で行っている。失禁時の沐浴は即おこなわれている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は日常生活の中で、利用者のやりたいこと・できることを、見守りしながら支援するようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常でのゴミだし・洗濯物干し・買物・散歩など、利用者の状態・状況に合わせて、2～3人単位で行われている。また、職員の休憩時間に近くの公園に散歩に行くこともある。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物に面して自動車道があり、安全を考慮して玄関の扉はドアセンサーによる開閉をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法令に定める避難訓練は実施されているが、近隣・町内の協力や参加を得た避難訓練までは行えていない。	○	利用者の重度化が進む中で、災害時の避難はホームだけでは難しい面が考えられるので、運営推進協議会を通じて地域へ協力体制についても検討が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量のチェックについては十分に配慮されており、利用者ごとの工夫や対応がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	町中に在る建物としての手狭さは感じられるが、それなりに設えに工夫があり、落ち着いた雰囲気を醸し出している。浴室・トイレ・洗面所のいずれもが清潔に保たれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	夫々の居室には利用者の使い慣れた生活用品や備品が持ち込まれ、個性ある住まいがつけられている。		